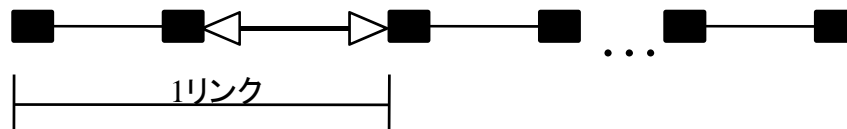


- (1)本競技は、U/UTPケーブルをモジュラジャックとモジュラプラグの接続により、より長く接続することを競う。競技時間は30分とする。
(2)以下の接続図に従って、両端プラグ成端のパッチコード、両端ジャック成端のツイストペアケーブルを作成し、各々を接続する。



- (3)はじめは、モジュラジャックの作成から始めること。また、最後は必ずジャックで終わること。
(4)パッチコード、ツイストペアケーブルの長さは約0.3mとする。
(5)結線はいずれもT568Aとする。
(6)モジュラジャック、モジュラプラグは持参すること。
モジュラジャックはNR3061(パナソニック電工)、モジュラプラグはCat.5e(型番任意)とする。
(7)ケーブル(U/UTP,Cat.5e)は各自が持参すること。
単線ケーブル:外被色 青 (通信興業/パナソニック電工)、より線ケーブル:外被色 黄 (通信興業)
(8)準備については、別紙を参照のこと。
(9)同一作業(外被除去など)を複数のケーブルにまとめて行うことを禁じる。
(10)接続タイム開始時は、作業椅子に座って、いつでも作業開始ができる状態にしておくこと。
(11)作業台、作業椅子、固定治具の使用は自由とする。
(12)ラベリングは必要ない。ただし、開始点は必要。
(13)競技エリアの正面で作業をすること。
(14)競技中にトラブル等が発生した場合は、挙手のうえ、競技委員に申し出ること。
(15)上記以外の作業については、各競技者が工夫をして行ってよい。
(16)IDCキャップの外し、挿入に専用の治具を用いても良い。ただし、一括で複数同時に行うことは禁止する。
(17)かしめ工具は1個のみ使用を許可する。ジャケットストリッパは複数使用しても良い。

課題5の採点ルール

以下のルールにより算出されたポイント数により絶対評価点と相対評価点の合計点を課題5の点数とする。

基本ポイント: 接続されたリンク数を目視により確認・算出し、1リンク=1ポイントとする。

- ①ワイヤマップ試験をリンク全体で行い、ワイヤマップエラーが生じた箇所は断線と判断し、その箇所を最終接続箇所としてリンク数を算出し、最終ポイントとする。
- ②①の断線箇所は、接続開始口から順に、各リンクを測定し判別する。
- ③リンク全体のワイヤマップが正常であった場合は、次に各リンクを順に測定する。各リンクとも正常であった場合には、基本ポイント=最終ポイントとする。
- ④成端箇所に、より戻しや外被異常などの不良箇所があった場合には、基本ポイントより1ポイント/箇所減じる。
- ⑤ルールの違反があった場合には、基本ポイントより5減じる。
- ⑥最後がプラグで終わっている場合は、そのプラグ接続は無効とする(直前のリンクまでをカウントする)。
- ⑦接続ポイント数1位～3位の者には、絶対評価点に加えて相対評価点を与える。接続ポイント数1位の者は+2点、以下、順に+1.0、0.5点となる。同一ポイントの者が複数いた場合も、同じポイントを与える。その場合も、順位は飛ばないこととする。

配点表

7点	_____
5点	23ポイント
4点	_____ 22ポイント
3点	_____ 21ポイント
2点	_____ 20ポイント
1点	_____ 18ポイント
0点	_____ 0ポイント

相対評価点

出場選手の中で、接続ポイントが上位3位の者に対して配点する(2、1、0.5)。

絶対評価点

接続ポイント数により配点する。